

---

## 活動報告

---

### 日本大学松戸歯学部臨床実習視察報告

菅 俊行<sup>1)</sup>, 野口 直人<sup>2)</sup>, 松尾 敬志<sup>1)</sup>, 吉本 勝彦<sup>3)</sup>, 市川 哲雄<sup>4)</sup>

キーワード：臨床実習，臨床能力到達試験（OSCAT），臨床実習ファイル（ポートフォリオ）

### Observation Report of Clinical Training at Nihon University School of Dentistry at Matsudo

Toshiyuki SUGE<sup>1)</sup>, Naoto NOGUCHI<sup>2)</sup>, Takashi MATSUO<sup>1)</sup>,  
Katsuhiko YOSHIMOTO<sup>3)</sup>, Tetsuo ICHIKAWA<sup>4)</sup>

**Abstract :** Clinical training inspection at Nihon University School of Dentistry at Matsudo was carried out on February 15, 2013, and useful information for clinical training was collected. The clinical training begins in April of the fifth grade, and it ends in June of the sixth grade. The patients are handed over from sixth- to fifth-year students in pair-policlinic training, which is carried out in the first month of clinical training. The number of patients is approximately 20 per student. Objective structured clinical achievement tests (OSCAT) are conducted at a later stage of the fifth grade, and subjects of OSCAT perform a medical interview, composite resin filling, root canal therapy, SRP, muscle trimming, tooth extraction, and vital sign checks. OSCAT is carried out in the testing time from 4 to 20 minutes. Subjects which are difficult to evaluate with such a practical test such as case analysis and treatment strategy development are tested by the written examinations. We are discussing the adoption of OSCAT at the end of the clinical training in our university, serving as a useful and helpful reference. The clinical training is completed by June of the sixth grade, and then classroom lectures are started to prepare for the graduation examination with multiple choice questions (MCQ) in December.

---

<sup>1)</sup> 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯科保存学分野

<sup>2)</sup> 徳島大学病院総合歯科診療部

<sup>3)</sup> 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子薬理学分野

<sup>4)</sup> 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面補綴学分野

<sup>1)</sup> Department of Conservative Dentistry, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School

<sup>2)</sup> Department of Oral Care and Clinical Education, Tokushima University Hospital

<sup>3)</sup> Department of Medical Pharmacology, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School

<sup>4)</sup> Department of Oral and Maxillofacial Prosthodontics, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School

## I. はじめに

平成22年度改訂版より歯学教育モデル・コア・カリキュラムに新たに臨床実習の項目が追加された。この追加は卒前臨床実習のより一層の充実、特に診療参加型臨床実習の充実・改善が求められていることを示している。歯科医学教育白書2011年版<sup>1)</sup>によると全29歯学部・歯科大学中、回答のあった24大学すべてにおいて診療参加型臨床実習が行われている。臨床実習における診療参加型と見学型の実習の割合を調査した結果、診療参加型実習の割合が最も多い大学では90%を示しており、低い大学では20%程度となっている。いずれの大学においても、協力患者の確保方法など独自の取り組みによる工夫した参加型臨床実習を実施していることが報告されている。本学でもカリキュラム改変に伴い、平成18年10月より学生診療室を設け、診療参加型臨床実習を開始して以来、既に7年が経過した。その間、臨床実習協力患者数の不足など様々な問題に直面してきた。可能な限り改め、翌年以降の臨床実習に反映させる努力はしてきたが、いまだ改善できていない問題点も依然として残っている。そこで、本学の臨床実習の改善を図ることを目的とし、平成23年2月に実施された東京医科歯科大学および日本歯科大学の視察に続いて、平成25年2月に広島大学と日本大学松戸歯学部の臨床実習の視察を行うこととなった。本稿は日本大学松戸歯学部の臨床実習視察内容の詳細について報告するものである。日本大学松戸歯学部は、1学年の学生数が約120～140名と本学の約3倍の学生を本学とほぼ同数の教員で教育をおこなっており、全29歯学部・歯科大学のうち、明海大学について学生数/教員数比が低い大学である<sup>1)</sup>。そのため効率的な学生教育の方法など、参考にすべき点が多いと思われる。したがって、本視察では他大学の臨床実習において優れている箇所を抽出し、本学の臨床実習の改善に繋げることを目的とした。

## II. 日本大学松戸歯学部の臨床実習について

### 1. 日程および参加者

平成25年2月15日に、卒前臨床実習教育支援センターの委員のうち、歯科2名の教員（菅俊行、野口直人）で、日本大学松戸歯学部付属病院の視察を実施した。（図1）

### 2. 臨床実習の構成

図2に日本大学松戸歯学部の臨床実習の構成を示す。臨床実習期間は5年次の4月から6年次の6月までの15ヶ月間である。朝8時40分から9時30分まではテーマ別講義、歯科医学総合講義、課題別講義などの講義が行われている<sup>2)</sup>。6年次の5月と6月は午前の講義が50分×2コマとなる。講義聴講には白衣着用が義務づけられており、着替えていない場合には欠席とみなされる。講義を行う教員一人だけでなく、他に数名の教員が講義室に待機しており、学生の出欠状況の確認を行っ



図1 日本大学松戸歯学部

ている。これは多数の教員で遺漏なきように学生の動向を常に見守っているというメッセージを学生に送るとともに、教員側の学生教育への熱意を学生に示すためである。したがって、タイムカードはない。以前は午後には講義を行っていたが、臨床実習を行った後では疲れて居眠りする学生が多いため、座学に適した1時限目に講義を実施している。定期的に講義試験を行うため、学生の出席率もよく、真剣に聴講している学生が多い。また、5年次から6年次へ進級できずに留年した学生は、5年次で取得した単位は認められず、新5年生と同様にすべて一から単位を取得しなければならない。

5年次の4月の午前中は6年次とペアを組み、担当患者の引き継ぎを行うペアポリ実習が実施され、午後は各科1日（保存科のみ2日）のポリクリ実習となっている。日本大学松戸歯学部の共用試験OSCEは4年次の2月に実施されており、進級した5年次のポリクリ実習は本学のようなOSCE対策の実習ではないが、一部、OSCEの課題に似たような実習内容で実施している診療科もある<sup>2)</sup>。5年次の5月からは臨床実習1が始まり、各科をローテートしながら、第Ⅱ総合診療室（保存科、補綴科）で担当患者の治療を行う<sup>3)</sup>。また見学介助は保存科では指導医一人に学生二人まで、補綴科では指導医一人に学生四人までつくことが認められている。指導医や研修医などの歯科医師はブルーの診療着を着用しているが、学生は白のケーシーを着用しており、一目で学生と分かるシステムになっている。（図3）夏休みはなく、9月まで臨床実習1を行う。10月から3月までは同様の臨床実習2が行われる。1月中旬から2月の中旬にかけての1カ月間は、それ以前に身に着けた臨床能力を客観的に評価するために臨床能力到達試験（OSCAT）が行われている。（詳細はOSCATの項を参照のこと。）臨床実習はすべて院内で行っており、本学で実施しているような学外実習は行っていない。

次に6年次のカリキュラムでは、4月には5年生への担当患者の引き継ぎを目的としたペアポリ実習、5月と

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5年	午前	ベアポリ実習	臨床実習 1					臨床実習 2					
	午後	ポリクリ実習											
6年	午前	ベアポリ実習	臨床実習 3-II	講義	夏休み	講義			卒試	卒試再試			
	午後	臨床実習3-I											

図2 日本大学松戸歯学部 臨床実習構成



図3 臨床実習指導風景（第Ⅱ総合診療室）



図4 臨床実習指導風景（初診科）

6月の2か月間はコース選択制の臨床実習3-IIの実習となる。その詳細については課題別臨床実習（臨床実習3-II）の項で後述する。臨床実習は6年次の6月で終わり、6年次の7月から夏休みをはさみ1月末までは国家試験対策を中心とする座学が行われている。卒業試験は12月中旬の2日間（試験時間は1日あたり50分×4）で行われ、再試験は1月に行われる。

### 3. 初診科

初診で訪れたすべての患者を最初に担当する科である。初診科での実習風景を図4に示す。医療面接、口腔内診査、エックス線診査、概形印象採得を行い、治療計画を立て、クリニカルクラークシップに治療予定を記述する。クリニカルクラークシップの一部を図5に示す。治療計画を立てた後に、保存科、補綴科、口腔外科など治療に関連する診療科の指導医の検印を受ける。

紹介状を持参している患者は、初診科を経ずに当該科を直接受診する。それ以外の患者は治療計画立案に必要な診査、資料収集を行うとともに、救急処置が必要な患者は処置を行う。研修医に担当される患者はすぐに治療が開始されるが、その他の患者は約5か月間のウェイトリング期間がある。

学生が一部の患者の医療面接を行い、その中で、承諾が得られた患者の医療面接の模様をチェアー付属の

ビデオカメラで撮影、録画している。学生の医療面接の様子は別室に配備されているモニターで指導医は確認できる。学生には後で自分が行った医療面接の様子はモニターで見ながら、一字一句間違えないように文字おこしを行わせて、記述させることにより振り返り学習をさせている。「あ～」、「えっと～」、などの言語、また沈黙の時間が流れた場合にはその秒数も書かせている。文字おこし記入例を図6に示す。

### 4. 患者への学生臨床実習参加協力依頼

学生が診療を担当する際、患者から承諾書は取っていない。口頭で告知を行い、承諾後に治療を行っている。患者への学生臨床実習への協力依頼は付属病院1階受付横のプレートに掲示しているだけである。現在はウェイトリング期間が約5か月間あることから、学生用患者を積極的にリクルートしているという印象はない。学生用患者の予約は指導医が取っていること、また治療においても学生の技量に応じて、指導医の判断で比較的簡単な治療の一部を実施させているにとどまるなど、本学の臨床実習と比較して、学生が自験するケースはかなり少ない感じであった。

学生実習に協力する患者に対しては、何のインセンティブもなく、ウェイトリング期間も指導医と同じである。





文字おこし記入例

初診日：H22年8月30日 学生：E-01 松戸花子

患者番号：20100001 患者性別：女 疾患名：C2

学生： すみません。おはようございます。ちょっとメモとりながらやってもいいですか？

患者： はい。

学生： おはようございます。本日から担当させていただきます、学生で久保といいます。  
よろしくお願いします。関千恵子さんでよろしかったでしょうか？

患者： はい。

学生： 本日はどうなされましたか？

患者： この一番奥。

学生： 左の下ですか？

患者： 下の内側。触るとザラザラして穴があいている感じ。  
かぶせたところが、穴があいているのか、はがれたかちょっとわからないんですけど。

学生： はい。詰め物したところっていうことですね。

患者： そうですね。それで1月ほどほおっておいたのですが、ちょっとズキンとする  
ようになったので・・・

学生： 痛みが出てきちゃいました。

患者： 早く来たほうがいいかなあと

学生： あ～、（沈黙 5秒）そうですか。どのような時に痛みが出ますか？たとえば冷たいものを食べたときとか。

患者： しみるとかないんですけど時々、ズキーンとします。

学生： あ～（沈黙 3秒）、えっと～（沈黙 5秒） それはズキンとした感じですか。

～ 中略 ～

学生： それではお口のなかをみていきます。

患者： はい、お願いします。

「注意事項」

- ・最初から最後まで文字おこしを行うこと。
- ・どうしてもわからない言葉や解読できないものは「\*\*\*」で表してください。
- ・枚数制限はありません。他人が読みやすいように入力してください。
- ・ファイル名は Windows Word で「H22 年度 A-1 日大太郎 CDC 文字おこし.doc」にして下さい。

図6 文字おこし記入例

での診療の模様を図7に示す。初診時に作製した模型が手前の卓上に置かれており、初診時の口腔内状態から変化があれば、再度、治療計画を練り直す。

## 6. 臨床実習ファイル（ポートフォリオ）

臨床実習の記録はポートフォリオと呼ばれる臨床実習ファイルにファイリングしていく。各科ごとの検印帳に加え、毎日の振り返り（Dairy Self Reflection）を行い、



図7 治療計画室



図8 学生技工室

「あった事」、「感じた事」、「考えた事」を日記のように記述させている。記述後には指導医の検印を受ける。

## 7. 技工

技工室については、各自に割り振られた技工台はなく、空いている技工台を自由に使用している。学生は技工をほとんど行っていないため、技工机上には技工物や技工物品等が置かれておらず、がらんとしていた。視察日も、1名の学生が個人トレーを製作しているのみであった(図8)。学生が技工に追われているという印象はない。別途、ローテート実習で職員技工室への配属日があり、技工物の印象から完成までの過程を見学する日が設けられている。

## 8. 臨床能力到達試験 (OSCAT)

臨床能力到達試験 (Objective Structured Clinical Achievement Test: OSCAT) は5年次を対象とした臨床能力を客観的に評価する試験である<sup>4)</sup>。平成24年度は1月17日から2月18日の間に実施された。その試験課題一覧を表1に示す。試験は11診療科、12課題で実施される。臨床能力評価は実技のみならず、治療計画立案や臨床検査データ分析など記述試験による評価も行っている。一人当たりの試験時間が共用試験実施機構 OSCE と比較してより長い時間を要することから、1日で全ての課題を実施することは不可能である。このため、各科で実施日が重複しないように、調整し、1日あたり、20から30名の学生を評価している。実施日程表を表2に示す。OSCAT は平日の実習時間内に実施している。

## 9. スキルラボ

平成18年に新病院棟が完成し、病院機能は新病院棟にすべて移転したが、旧病院棟には、仕様の古いチェアがそのまま残っており、そこを整備してスキルラボとして使用する予定である。チェアにマネキンを装

着して、空いた時間に自由に活用できるように整備する予定であるが、今はまだ十分に機能しているとは言い難い状況である。本院でも数年後に歯科診療室が新外来棟へ移転予定であるが、移転しないチェアを保存、整備してスキルラボとして活用することは、学生の診療技能向上の一助となるのではないかと考えられた。

## 10. カンファランス

夕方5時から治療計画立案、診療後の治療報告などが行われている。学生の発表を指導医とともに発表学生と同じ班の学生(約10名)も聴講する。初診時と治療後の口腔内状態を歯式図で提示して、治療開始前に指導医とともに立てた治療計画にしたがって治療を行い、実施した治療内容を報告していた。

## 11. 課題別臨床実習 (臨床実習3-Ⅱ)

課題別臨床実習 (臨床実習3-Ⅱ) は6年次の5月と6月の2か月間(8週間)で行う。A(選択)コースとB(配属)コースとに分かれており、学生自身の希望でコースを選ぶことができる<sup>5)</sup>。コース別の概要を表3に示す。

A(選択)コースは自分の興味がある分野をより深く掘り下げて、勉強したい科の臨床実習のみを毎日行うコースである。12コースが設けられており、各コースの選択期間は1週間(2コース)、2週間(4コース)、4週間(5コース)および8週間(1コース)のコースがあり、8週間以外のコースを選択する場合には別のコースと組み合わせて選択し、のべ8週間の実習期間となるようにコース選択をする。各コースの受入れ学生数の上限が定められているため、希望者多数の場合には、5年次の成績上位者を優先するようになっていたが、特定のコースに学生の希望が集中するのは稀であり、毎年、上手に希望がばらけるようである。

B(配属)コースは10診療科を各科4日間のローター

表1 臨床能力到達試験（OSCAT）課題一覧

診療科	課題	実施方法	課題時間
初診科	初診患者の医療面接を行います。ただし、口腔内を診る場合は「お口の中を見せていただきます」と言ってください。(口腔内写真を提示します。)6分間の医療面接を行ってください。	実技	医療面接6分および診療録記載6分
臨床検査科	臨床検査データを分析し、その結果から疑われる疾患の特徴について述べよ。	記述試験	30分
保存科（修復）	準備された器材を適切に用いて2級窩洞のコンポジットレジン修復を形態修正まで行いなさい。(ただし、すでにシェード選択、窩洞形成は終了しているものとする)	実技(シミュレーション)	15分
保存科（歯内）	上顎左側第一小臼歯の感染根管治療を行います。患者に治療内容を説明し、治療(根管口明示まで)を行いなさい。	シミュレーション	20分
歯周科	上顎右側中切歯唇側面に対して、浸潤麻酔下にてスケーリング・ルートプレーニングを行います。麻酔の説明、スケーリング・ルートプレーニングの説明を行い実施してください。	顎模型を用いて、上顎前歯部の実技評価	4分
補綴科	別紙の図に示した部位の上顎筋圧形成を行いなさい。	相互実習	20分
口腔外科	上顎右側第1小臼歯を矯正治療のため、便宜抜歯することとした。必要な器具の準備、手指消毒、滅菌グローブの装着、局所麻酔を行いなさい。	実技(相互)	15分
麻酔・全身管理科	課題：1. モニター(血圧計、パルスオキシメータ、心電図)を装着しなさい(患者はマネキンを使用)。 2. バイタルサイン急変時の対応(緊急薬・対処法)を選択しなさい。 3. 記述問題	シミュレーション、記述	9分
矯正歯科	症例分析結果をもとに症例概要および使用する矯正装置について説明しなさい。	実技	12分
放射線科	パノラマエックス線写真の所見を作成しなさい。	実技	15分
小児歯科	小児の口腔内写真、X線写真および口腔内診査結果から、それぞれの歯の病態を診断し、治療計画を立案する。	記述式試験	1時間
特殊歯科	スペシャルニーズのある人に対する歯科医療について検討しなさい。	記述式試験	50分

表2 臨床能力到達試験（OSCAT）実施日程表

[illegible]

表中のアルファベットは学生の班分け（AからL班の計12班、1班あたり学生数約10名）を示している。

ト実習を行う。5年次に行った各科のローテート実習と同様の実習であるが、万遍なくすべての科の臨床実習を行えることから、広い範囲の知識を身に着けるのに向いており、成績上位者でも、希望する学生は多いようである。

## 12. 成績評価

学生の成績評価の評価配分を表4に示す。臨床実習

1, 2, および3で評価配分は若干異なるものの、ポートフォリオが10%, 治療計画およびカンファランスが10~25%, 臨床能力到達試験(OSCAT)が25%, 配属先各診療科における臨床実習が50~65%となっている。

### 13. 学生の指導制度について

学生はA班からL班の計12班（1班あたり学生数約10名）に分かれており、各班に2名の専任教員（計24



表3 6年次課題別実習（臨床実習3－Ⅱ）

A(選択)コース			B(配属)コース	
コース名(配属先)	配属期間	募集人数	配属先	実習日数
歯周治療学	1週間	32名	初診科	4日
臨床検査科		24名	放射線科	4日
歯科矯正学	2週間	16名	臨床検査科	4日
接着審美修復		20名	保存修復	4日
最新の歯内療法学		20名	歯内療法	4日
口腔インプラント科		12名	歯周科	4日
CT・MRIによる顎顔面領域の画像診断	4週間	12名	歯科矯正科	4日
補綴学アドバンスコース		18名	補綴科	4日
口腔外科		12名	口腔外科・麻酔科	4日
小児歯科		18名	小児歯科	4日
麻酔科・全身管理		12名		
脳神経外科	8週間	2名		

Bコースは10診療科、各4日間のローテーション実習である。

表4 成績評価

#### 1)臨床実習1（5年前期）

- ① ポートフォリオ(10%)
- ② 治療計画およびカンファランス(10%)
- ③ 配属先各診療科における臨床実習(60%)
- ④ ローテーションポリクリ(20%)

#### 2)臨床実習2（5年後期）

- ① ポートフォリオ(10%)
- ② 治療計画およびカンファランス(15%)
- ③ 配属先各診療科における臨床実習(50%)
- ④ 臨床能力到達試験(OSCAT)(25%)

#### 3)臨床実習3（6年前期）

- ① ポートフォリオ(10%)
- ② 治療計画およびカンファランス(25%)
- ③ 臨床実習3－Ⅰ 配属先各診療科における臨床実習(25%)
- ④ 臨床実習3－Ⅱ 配属先各診療科における臨床実習(40%)

名)が指導に当たっている。専任教員は助教など若手の教員が担当し、年6回のコンサルテーションを行っている。また、先の24名の専任教員と5,6名の委員を加えた約30名を構成員とする院内教育委員会において、学生の出席状況、問題点、臨床実習の進行度等が一覧にまとめられたエクセルファイルで個々の学生の実習状況のチェックが行われる。教員2名が受け持っている班の学生を1名ずつ個別に指導する。臨床実習の進行度は診療室で担当患者の電子カルテを見ながら確認する。

臨床実習期間中は、原則として欠席は認められていない。欠席をした場合には、1日につき1ポイント、遅刻・早退は0.5ポイント以上と換算し、1カ月に6ポイント以上の欠席は、部長・科長会に報告される。また、1カ月に22ポイント以上の欠席者は審議の対象となる。

### Ⅲ. 徳島大学臨床実習との比較、取り入れるべき点

配当患者数は1学生あたり20人（新患5人、6年生からの引き継ぎ10人、Pメンテナンス5人）と、本学の1学生あたりの配当患者数と比較して多い。しかしながら、学生専用の診療室は整備されておらず、各診療科をローテートして実習を行う形態である。各科ローテート実習では学生の配当表に従って担当患者の予約を取らなければならないという問題点があるが、学生間でローテート科を適宜、交代して、担当患者の予約、治療を優先させている。

配当患者の治療は、学生の技量に応じて可逆的な比較的簡単な処置を、指導医の判断で行わせている。指導医によるリカバリーが困難な非可逆的治療、すなわち難易度の高い治療は学生には行わせていない。したがって、配当患者は本学より多いものの、実際に学生自身が治療を行うケース数は少ないと思われる。自験ケースは症例が学生によって多様であることから、ミニマムリクワイアメントは設けられていない。見学した印象では治療技術の習得より、診断や治療計画立案などに重点を置いた実習を行っていると感じた。本学では配当患者が日大松



戸歯学部と比較して少ないことから、診断、治療計画立案用の患者が少なく、他の学生術前検討会や研修医の症例報告会に参加して、症例不足分を補っているが、自分の担当患者でない分、真剣みに欠ける。治療計画立案用の症例を与えることなどにより、診断能力、治療計画立案能力を向上させる必要性を感じた。

本学で導入を検討している OSCAT については、課題内容、実施要項など大いに参考になると思われた。OSCAT でも、実技のみならず、診断力、治療計画立案能力を評価する試験もあり、この点においても、診断、治療計画立案能力の習得に力を入れていると感じた。記述式試験は1日で実施することが可能であるが、実技評価は受験生1人あたりの試験時間が15～20分要することから、一日で完了することは時間的に困難であり、初診科以外は4日から6日に分けて実施され、1日あたり20名から30名の学生を評価している。初診科の医療面接は試験時間が医療面接6分および診療録記載6分の計12分と短いことから10列で試験を行い、1日ですべての学生の評価を行っているが、評価者を20名確保しなければならない。その他に模擬患者、誘導係なども必要であり、人的資源確保や評価者間の標準化など課題は多いと思われる。OSCAT の課題は共用試験 OSCE と類似した課題が多く、臨床実習後の評価試験としてはもう少し高度な内容で時間をかけて評価することが必要であると感じた。客観的試験とはいいながら、このような短時間の試験形態でどれほど正確かつ適正に診療技能の評価を行えるのかは検討の余地があると思われる。

#### IV. あとがき

本稿は1日で行った見学内容をもとに執筆したものである。1日の視察で臨床実習の詳細まで把握することは困難である。事実、当初予定されていた小児歯科の臨床能力到達試験（OSCAT）が延期になり、実施要項を頂き、簡単な説明を受けるにとどまった。また、視察を行った金曜日は出向で不在の教員が多く、診療に当たっている教員数が最も少ない曜日であった。年度末の慌ただしい中、視察日程を決定した弊害が出た結果となった。視察大学と事前に打ち合わせを行い、実習密度の濃い日を選んで視察を行えばさらによかったと感じた。以上のことから、日本大学松戸歯学部の臨床実習形態を十分に把握して執筆したとは言いがたいが、本稿が本学の臨床実習のさらなる改善に少しでもお役に立てればと願ってやまない。

#### 謝 辞

日本大学松戸歯学部臨床実習見学に際し、許可、手配や資料の提供、当日のお世話を頂いた日本大学松戸歯学部附属病院病院長 和田守康先生、副病院長 河相安彦先生に感謝の意を表する。

#### 文 献

- 1) 日本歯科医学教育学会白書作成委員会／編集 日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書 2011年版（2009～2011年）
- 2) 日本大学松戸歯学部 平成24年度シラバス 5年次臨床実習1（ポリクリ）
- 3) 日本大学松戸歯学部 平成24年度シラバス 5年次（臨床実習1・2）
- 4) 日本大学松戸歯学部 平成24年度臨床能力到達試験（Objective Structured Clinical Achievement Test: OSCAT）実施要項
- 5) 日本大学松戸歯学部 平成24年度シラバス 6年次課題別実習（臨床実習3）